

観光は「救い主」 足り得るか？

今年の4月、前原大臣名で「国土交通省の成長戦略」が発表された。バブル崩壊以降「成長」という言葉と無縁の位置に甘んじているタクシー産業も「国土交通省」所管故にこの「成長戦略」に関わる余地はないものかと、国土交通省のホームページからPDFをダウンロードして検討してみた。5分野が成長の対象になっているが、海洋分野、住宅・都市分野、国際展開・官民連携分野はちよつと直接縁がなさそうだ。航空分野が間接的に影響ありそうだが、やはり観光分野が直接タクシーの需要を伸ばすチャンスがありそうだ。目標ではこの10年で訪日外国人年間3000万人を目指し、様々な施策を行う。特に多言語表示が可能な携帯端末を活用した観光情報の提供を推進し、またそうした観光立国を支える人材育成を促進し、医療観光、文化観光など「他分野との融合」と「地

域の創意工夫」による新しい観光の推進を図り、そのための法体系の見直し、規制緩和を検討するとの事。リーマンショック以降、劇的に減ってしまったと言われるタクシー需要は、しかし景気が回復しても簡単には増えないと思われる。何よりも今までのタクシー需要（とりわけ流し需要）を支えた労働人口の減少が、急速に進んでいるからである。一方、移動需要が増える。一方、移動需要が増えていくのは高齢者、移動制約者、そして観光客である。どの需要も今までのタクシー業界のサービスマネキュアでは、十分な取り込みと採算が難しい。しかし「成長するニーズ」に供給の側がイノベーションを持って応えずして、その産業の発展は無いと思われる。問題は「観光」が業界の「救い主」足り得るか否かではなく、業界が「観光」を救い主として活用できるイノベーションを起こし得るか、否かだと思ふ。明らかに今までに無い人材が必要であり、また今までに無い仕組みと法体系が必要だ。そして何

清野吉光氏のコラム 第23回

団塊 耕 志 録

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年㈱タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。



「成長」への試行

よりも、答えがあらかじめ用意されていないイノベーションの試行錯誤に挑戦する経営者の勇氣こそ、必要とされていると思う。

「京都エコ観光
タクシー」試乗

8月20日午後六時過ぎ、京都の大覚寺において、次世代自動車で京都の名所を巡るJTB西日本のツアー「京都ECO観光」の出発式があった。たまたまオジンが京都府の次世代自動車普及推進協議会の「観光ワーキンググループ」の事務局を務めている縁もあり、また個人的にもEVタクシーでは是非京都観光をしたかったという事もあって、この最初のツアー客として出発式に参加するはめになった。お陰で、翌朝の京都新聞に都タクシー様のアイミープと一緒に写真付実名おまけに年齢まで紹介された。しかし京都新聞の記者にはちゃんと素性とワーキンググループとの関係を名乗ったので、決して「さくら」という訳ではない！。



ところでこのアイミープによる「京都エコ観光」は結構な収穫があった。ひとつは京都の観光とアイミープという電気自動車との相性の良さを、改めて確認できた事である（もちろんまだ見ぬリーフも同様の事が言えると思うが）。京都の観光地の多くが非常に狭く、かつ急な坂を通過していく。アイミープは軽自動車であるにも係らず、大人4人が乗ってもストレスなく登坂が可能で、小さいが故にとりまわしが良い。また電気自動車であるが故に当然静かで、乗務員さんの観光案内も聴きやすい。

「観光案内力」で勝負が決まる

観光案内といえば21日の

エコ観光担当の乗務員さんは、西山さんという昔バスガイドをやっていた女性であった。70年代の修学旅行をはじめとする関西の観光旅行の最盛期に、徹底的に叩き込まれたとの事で、まさに流暢なベテランバスガイドの説明であった。見学場所にも一緒に付いてきてくれて、詳しい説明をしてくれる。ガイドブックではわからない物語を語ってくれる。昔、沖縄で観光タクシーなるものに乗ったが、たまたまなのか、その乗務員さんは駐車場までは送ってくれるが、後は「いつてらっしゃい」で「物語」を語ってくれない。歴史の史跡は多くは変哲も無く、その史跡をとりまく物語が語られてはじめて輝きを持つ。できたらその物語を聞く人の人生歴や知識と関連付けながら語ってもらえると、より印象的で理解しやすい。昔中国で観光旅行をしたときに、中国人のガイドの人は史跡を説明するときに、中国の歴史だけではなく、同時代の日本の歴史にも言及しながら説明をし

てくれた。よく勉強しているものだと感心をした。タクシーに内外の観光客をひきつけるためには、こうした「観光案内力」は欠かせないと思う。それができる乗務員さんはなかなかいないよ、との声が聞こえそうだが、西山さんのような元バスガイドや元旅行添乗員の方もいるだろうし、国土交通省の「成長戦略」でも指摘されているように「他分野との融合」「地域の創意工夫」による新しい観光推進という観点もある。またやはり「成長戦略」でも指摘されている「ブログ、ツイッター等新しいメディアの効果的な活用」なども必要と思われる。今回の「京都エコ観光」で私自身はツイッターをやっているのにも係らず、何の発信もしなかったのを深く後悔しているのだが、その分(言い訳?) iPadを持ち込んで、デジタルマップを動かし、現在地から目標地への経路を検索し、移動に応じて航空写真+地図が移り変わり、周りの景色や建物の情報を得ると言う事をやってみた。

そしてガイドさんの説明の背景情報を知りたくなると、手にしたiPadでウイキペディアを検索、その場で確認をしてみるという事をしてみた。航空写真というのは誠に便利で、例えば上賀茂神社の本殿に入ったときに、建物全体の配置がどうなっているか知りたいとき、GoogleマップのGPSで現在地を検索すると、自分の位置を含む社殿の全体像があたかも上空から見ているかの様にわかるのである。観光旅行もこうした機器と情報を使うことによつて、もつと深みと面白みのあるものになっていくのではないかと思う、しかも子供や老人や女性でも、そして外国人でもなんなく操作が可能になっているのである。iPadなどタッチパネル型の携帯端末の登場によつて、アナログとデジタルが結合し、操作が誰にでも簡単に可能な時代になつていくと思われる。

三鷹では通訳サービス

業界紙でもすでに紹介さ

れているが、境交通さんをはじめとする三鷹のタクシ―事業者の方達が、三鷹ネットワーク大学のプロジェクトで、タクシー内に無線インターネット環境を作ることによつて、乗務員さんとタクシー利用者にとんな利便性を提供できるかを実験することになり、オリジンもそのお手伝いをする事になった。iPadを使い、デジタルサイネージ、スカイプを活用した外国人向け通訳サービス、利用者アンケート、利用者の周辺の空車車両の検索などが企画されている。あくまでも実験であり、課題をさぐるというのが趣旨だが、こうしたタクシ―事業者と利用者のニーズに即した試行錯誤から、新しいタクシ―産業のイノベーションが生まれたらこれほど嬉しい事はないし、ひいてはタクシ―産業で生きているオリジンためにもなるのではと皮算用(?)をしてしている。こうした新しい試みがあったら、是非ご一報を頂きたい。喜んで馳せ参じます!

(2010年 8月24日記)

プリンター一体型業務用アルコール測定器

ALC-miniⅢ

¥83,000より

アルコールだけに反応 音声ガイドで簡単操作

コンパクトなボディにプリンタ機能搭載!
吹き込む・測定する・記録する、の
カンタン3ステップアルコール測定!

※表示金額には消費税、保守料等は含まれておりません。

息を吹いて下さい。

2011～2012年にかけて、全ての事業者はアルコール測定器の使用が義務付けられます。
(事業用自動車総合安全プラン2009)

義務化に向けて 備えの1台です!

お申し込みお問い合わせ

株式会社 システムオリジン Tel.03-3834-8352

関東支店営業本部 〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-3-4 田中ビル7F 拠点/北海道・東北・関東・甲信越・東海・名古屋・関西・中国・九州

製造元 TD 東海電子株式会社
http://www.tokai-denshi.co.jp